

課題

- 人口減少と高齢化の進展する中山間地域での持続的発展
- 各拠点の魅力向上に向けた取り組み
- 交通インフラの整備効果の最大化

付知町地区



(写真：中津川市提供)

推進体制



課題解決に向けた取組

自動運転技術の導入・運営、自動運転予約アプリの開発、拠点の創出・運営

- 自動運転技術の導入・運営
 - ・人だけでなく農産物の出荷や生活品の配達など貨物も合わせた効率的な運行
 - ・既存公共交通との連携、代替としての活用検討
- 自動運転予約アプリの開発
 - ・自動運転サービスを予約するだけでなく、収集・可視化した地域の歴史や資源等をアプリ上で表示し、訪問者等を集落内へ誘導
- 拠点の創出・運営
 - ・オンライン拠点として、地域史料、地形や拠点候補地の可視化（一部3Dモデル化）により、情報発信
 - ・古民家リノベーションにより拠点を創出し、住民、訪問者の双方を誘導。一部は、シェアオフィス等へ活用



社会実験の実施
(貨客混載で運行)



予約アプリ画面



地域拠点の設計に向けた現地調査

2021年度の主な取組

- 自動運転技術の活用を見据えたまちづくりを進めるため、7日間、「地区内人・物どこでも輸送」を有人運転による社会実験を実施
- 予約システム(アプリ)を使い自動車を地区内走行させ、移動・輸送のニーズを把握
- 住民アンケート及びプロブパーソン調査の実施による潜在的需要の把握

取組内容

自動運転技術の社会実装を見据えた人・物の輸送社会実験（2021年12月9日～12月15日）

- 東京大学と連携し、自動運転技術が導入された未来社会での潜在的な需要を把握するため、様々な自動車の利用方法を試行する社会実験を実施
- 人・物の輸送社会実験の特徴
 - ・1台の車両を自動運転車両に見立てて、時間帯に応じて3種類の活用を試行

【実験1】地区内 人・物どこでも輸送

- ・地区内を、タクシーのように予約に応じて車両を走らせ、人だけでなく、荷物のみも輸送
- ・予約するためのWebアプリを実装



古材を再利用したバス停
（歴史を紹介した地図パネルや古写真）

【実験2】巡回便

- ・地区内を定時、定路線で運行
- ・巡回中に、実験3で用いる商品の集荷も行い、貨客混載で運行
- ・実験用にバス停を設置。地域文化を活かしたデザインを採用

【実験3】移動販売

- ・昼間の時間帯に、お弁当等を移動販売

- 実験期間の1週間で、89名のひとと、16セットの荷物を輸送
移動販売は3日間実施し、271点の商品を販売
- 需要把握のため、地区内全戸配布でのアンケート調査等を実施

▼予約アプリ画面



▼買い物での利用



▼道の駅への農産物の出荷で利用



▼移動販売の様子

